

イ 授業改善のポイントについて

改善のポイント1

社会的事象に対する生徒の気付きや疑問を基に、単元を貫く学習問題を設定すること

単元における学習の目的を明確にし、生徒の主体的な学習を促すために、学習問題を設定し、単元の学習のつながりを意識させることが大切です。そのために、単元の「つかむ」過程において、生徒の気付きや疑問を生かして学習問題を設定し、学習の見通しをもたせることが必要です。また、生徒が社会的事象に出会って関心を向け、社会的事象の中から生徒の気付きや疑問が生まれるようにするために、澤井陽介の『生徒自らの問い』と『学習問題』をつなげる7つの型を参考にしました（図4）。生徒に出会わせる社会的事象や生徒から引き出したい気付きや疑問の内容に応じて、この7つの型の中から適切だと考えられる型を選択して、実践を行いました。

A 疑問つなぎ型（1つの情報から膨らませる方法）

1枚の資料から気付きや疑問を出し合い、それらをまとめて学習問題をつくる。

B 対比型（複数の情報を比べる方法）

他の資料と比べることで、特色や意味に着目させ調べる学習問題をつくる。

C トンネル型（時間経過に着目させる方法）

時間の経過に着目させ、その間にあった出来事や人々の働きを調べる学習問題をつくる。

D ヒント提示型（調べる対象を明示する方法）

全体を見せておいて、ヒントとして部分を見せることで予想を引き出し、調べる対象へと導いてから学習問題をつくる。

E ズームイン・ズームアップ型（焦点化して考えさせる方法）

焦点化した情報により様子を捉えさせてから、社会的事象の特色や意味を考える学習問題をつくる。

F クイズ・パズル型（既習の知識を活用させる方法）

たくさんの情報を一度に提示し、つながりや共通点などを、知っていることを基にして考えさせて学習問題をつくる。

G 対立・討論型（対立軸をつくり、立場を明確にする方法）

『AかBか』あなたはどちらを選ぶか、など相反する情報を提示し、始めの自分の立場や意見を決めるように学習問題をつくる。

『社会科授業づくりトレーニングBOOK』 澤井陽介著 2015年 明治図書を参考に作成

図4 『生徒自らの問い』と『学習問題』をつなげる7つの型

改善のポイント2

社会的事象について調べたことや考えたことについて、簡潔な文章にまとめさせたり、キーワードを使って整理させたりすること

単元の「調べる」過程では、学習計画に沿って情報を集めたり読み取ったりしたことを基に、社会的事象について理解を深めさせることを目指します。1時間の授業の中で、生徒が調べて分かったことや考えたことを、単元の終末で活用できるようにまとめさせることを考えておくことが必要です。そのために、簡潔な文章やキーワードを用いて学んだことを記述させるようにワークシートを工夫します。ここでは、社会的事象の特色や意味について考えたこと、単元を貫く学習問題について考えたことが分かるように整理させます。

学習問題「オーストラリアがアジアとの結びつきを強めているのはなぜだろう？」ワークシート2

【自然と文化】

めあて オーストラリアの自然や文化

1. オセアニア州の地形を整理しよう。

オセアニアの自地図
※地形の大型図参照

2. オーストラリアとヨーロッパの距離と、オーストラリアと日本の距離ではどちらが近いのか。

3. オーストラリアの気候について調べよう。

(1) 下のA～Cの気候図は、シドニー、アリススプリングス、パースの気候を表しています。それぞれ、どの都市のものか、気候図の下の【 】に都市名を書きなさい。

気候図 A

【 】

4. オーストラリアやニュージーランドの自然や文化について調べよう。

☆学習問題に対する予想
今日の学習を通して、自然や文化の面から、学習問題「オーストラリアがアジアとの結びつきを強めているのはなぜだろう？」の理由を考えて、説明しよう。

【 】

図5 1単位時間のワークシート

「オセアニア州」学習計画表

1年()組()番 氏名()

| 番号・用語 (解決の手がかり) | 選んだ理由 | 評価 (○をつける) |
|-------------------------------------------|---------------------------|------------|
| 1 | オセアニア州の地形を整理しよう。 | A・B・C・D |
| 【学習問題】 オーストラリアがアジアとの結びつきを強めているのはなぜだろう？ | | |
| 2 | オーストラリアの自然や文化について調べよう。 | A・B・C・D |
| 3 | オーストラリアの気候や農業について調べよう。 | A・B・C・D |
| 4 | オーストラリアの歴史や多文化社会について調べよう。 | A・B・C・D |
| 5 | 学習問題について自分の考えをまとめよう。 | A・B・C・D |

図6 単元の学習計画表

改善のポイント3

社会的事象について説明したり自分の考えを論述したりする際に、根拠と理由を述べさせること

単元の「調べる」過程と「考え・まとめる」過程では、単元の学習内容を振り返らせ、単元を貫く学習問題についてどのようなことが分かったのかまとめさせ、分かったことを基に学習問題についての考えを記述させます。ここでは、学んだことを生かして根拠や理由を示し、自分の考えをまとめさせるようにします。単元の「調べる」過程においてまとめた情報を活用させることで、知識や概念が定着し単元の学習内容につながりをもたせて理解が深まると考えます。

また、新たな情報を提示し生徒の理解に揺さぶりをかけて問い直すことで、生徒の考えを深めさせるような指導も考えられます。問い直すことで新たな学習問題（論題）を設定するときには、単

元における社会的事象に含まれる社会的な問題について、「何が問題」で「どのような立場や影響があるか」を把握させ、対立点や判断の違いを明らかにして、意思決定の場面や討論型の学習を設定します。

どの過程においても、相手意識をもたせて分かりやすく伝えるような工夫をさせ多様な考えに触れさせて意見を交流させることで、多面的・多角的に考察し公正に判断するようになり、適切に表現する能力と態度が育成されると考えます。

参考資料

- ・澤井陽介 『澤井陽介の社会科の授業デザイン』 2015年 東洋館出版社
- ・澤井陽介 『社会科授業づくりトレーニングBOOK』 2015年 明治図書